

令和2年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検及び評価報告書

令和2年10月

常総市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の概要

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果について報告書を議会に提出するとともに公表する。

2 点検・評価の対象

令和元年度常総市教育運営方針に掲げる事務事業

3 点検及び評価の方法

- ①令和元年度常総市教育運営方針の重点事項に対する主な取組、成果等を取りまとめ、常総市教育審査委員の総合的な評価を受けた。
- ②令和元年度常総市教育運営方針に基づく当該年度の事務の管理及び執行の状況を項目別に整理し、達成度を3段階で自主点検するとともに、これに対する今後の方向性を示した上で、常総市教育審査委員がその有効性を3段階で評価し、意見等を付した。

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を実施したので、次のとおり報告する。

令和2年10月5日

常総市教育審査委員 梅 澤 浩

常総市教育審査委員 秋 田 武

各施策目標の重点事項に対する主な取組, 成果等及び教育審査委員の評価

1 未来に夢をもち 「生きる力」を育む 学校教育の充実

- 学習指導要領改訂の方向性を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導を充実し、教員の指導力の向上と指導のための環境整備, 拡充を図る。(指導課)

【主な取組, 成果等】

- ・計画訪問, 要請訪問を通して「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導について指導・助言を行った。また, 学力向上ブラッシュアップ研修の重点校の授業を参観し, 自校の授業改善に取り入れることができた。

- 道徳の教科化と小学校外国語教育の充実に向けた指導体制の確立を図る。(指導課)

【主な取組, 成果等】

- ・要請訪問を通して、「考え, 議論する道徳」の進め方について指導・助言を行った。市内でも「特別の教科 道徳」を学校の重点研究の教科として進めている学校が増えてきた。
- ・要請訪問を通して, 外国語活動における指導の工夫や, Small Talk 活動の進め方等について指導・助言を行った。市内小中学校へ11名のALT講師を計画的に派遣し, 指導支援を行った。

- 土曜日補習教室(常総ほっとサタデー教室)を充実し, 学習につまずきがみられる児童に対して, 学校や保護者との連携を図りながら学習支援を行う。(指導課)

【主な取組, 成果等】

- ・平日は水海道地区3校(水海道小・豊岡小・絹西小), 石下地区2校(石下小・岡田小)の5会場で実施。土曜日は公共施設(市立図書館・石下総合福祉センター)の2会場で継続実施した。登録者数総数は177名であった。

2 安全でいきいき学べる教育環境の創造

- 学校施設の老朽化対策等を進め, 教育環境の整備を推進する。(学校教育課)

【主な取組, 成果等】

- ・石下西部統合幼稚園の園舎建設工事を行うための実施設計が完成した。

- 危機意識を育てる防災教育を推進する。(指導課)

【主な取組, 成果等】

- ・防災教育委員会を開催し, 防災教育推進のための取組の推奨, 教職員の防災教育の指導力の向上と児童生徒の防災意識の向上を図った。
- ・市内一斉防災訓練(12月15日)の充実と取組への意識向上を図った。

3 市民の豊かなくらしを支える生涯学習の推進

- それぞれのライフステージに応じた多様な学習機会を充実させ、生涯にわたる学習の継続による一人ひとりの資質・能力の向上を目指す生涯学習を推進する。（生涯学習課）

【主な取組，成果等】

- ・学習ニーズの高い教養や健康，趣味の講座を企画し，前期（6～11月），後期（12～3月）に分けて25講座を実施した。
- ・講座修了後は受講者自らが継続して学習できるよう自主運営の支援に努め，令和元年度においては1団体がサークルとして設立し学習意欲の向上を図った。

- 地域交流センターを中心に関連施設と連携した事業を展開することにより，市内外の交流を促進する。（生涯学習課）

【主な取組，成果等】

- ・車両の展示やペット関連など交流イベントの会場として当館専用駐車場を提供し，周辺施設の利用促進を図った。
- ・当館のライトアップにより季節に応じた景観を演出し，地域のランドマークとしての注目度向上を図った。
- ・国土交通省関東地方整備局下館河川事務所と連携して，水害関連資料の展示スペースにAR機器等を導入するなどして拡充を図った。

- 市民の自主的文化・芸術活動を支援する。また，再生の出来ない郷土遺産の保全，歴史的建造物，資料等の利活用を推進する。（生涯学習課）

【主な取組，成果等】

- ・「長塚節文学賞」の作品を広く募集し，入選作品集の刊行も行うなど「節のふるさと常総」の文化を全国に発信した。
- ・23回目となる「篠山木挽き唄全国大会」を開催した。
- ・市民文化祭を開催し，市民の文化芸術の発表の場として，文化・教養の向上と文化団体の育成を図った。

- 青少年育成常総市民会議や青少年相談員の全市的な連携，子ども会組織の円滑な運営を支援する。（生涯学習課）

【主な取組，成果等】

- ・青少年育成常総市民会議および青少年相談員会との共催で「少年の主張大会」を開催し，青少年の広い視野を持った考え方や柔軟な発想力・想像力の向上を図った。
- ・常総市子ども会育成連合会による「子どもまつり」や「サマーキャンプ」等を支援し，様々なスキルを体得させ心身ともに健やかな青少年の育成を図った。

4 市民の健康を増進する生涯スポーツの振興

- 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しみ、健康づくりを進める生涯スポーツ社会の実現を目指し、安全で安心なスポーツ環境の提供及び整備に努める。(スポーツ振興課)

【主な取組, 成果等】

- ・安全で安心なスポーツ環境を利用者に提供するため、また避難所としても指定されている石下総合体育館の改修工事(冷暖房設備設置, 雨漏り改修)を実施し, 競技環境の充実を図った。

- 指定管理者との連携による社会体育施設の円滑な管理運営を図るとともに, 民間ノウハウを活用したスポーツ事業を推進する。(スポーツ振興課)

【主な取組, 成果等】

- ・市民の誰もが気軽に参加できるようなスポーツ教室を実施するために, 社会体育施設の指定管理者であるミズノに業務委託をしたことで, 事務の削減・効率化の実現ができた。また, ノウハウを生かしたことで, より充実した内容となり, 質の高い適切な指導者の確保が可能になった。

- 市民協働のもと「いきいき茨城ゆめ国体」を盛大に開催するとともに, 国体を契機に市民のスポーツへの参加意欲の向上に努める。(スポーツ振興課)

【主な取組, 成果等】

- ・茨城国体記念 第46回常総市長杯争奪茨城県中学校ハンドボール大会を開催し, 国体の開催気運の高揚及びハンドボール競技の普及と競技力向上を図るため, 開会式及び表彰式において, 開催PRを実施した。

5 健康を増進する食育の充実

- 安全・安心な学校給食の提供と食育の更なる推進を図る。(学校給食センター)

【主な取組, 成果等】

- ・給食業務従事者に対し通常の保菌検査(毎月2回)やノロウイルス検査(10月~3月, 毎月1回)を実施。また, 食材に対し放射能検査を月14回程度実施し, 安全安心な学校給食を提供した。
- ・常総市産の旬の食材を活用し, 地産地消の推進を図った。
- ・栄養教諭を中心に, 給食時訪問, 家庭教育学級(講話), 親子給食を実施し, 児童生徒及び保護者等への食育の推進を図った。
- ・食物アレルギーや宗教上の理由などで同じ給食を食べられない子供たちにも, みんなで一緒に食べる学校給食の楽しさの共有と多文化への相互理解のため, 提供する食材に配慮した「みんなでスマイル給食の日」を実施した。

6 心豊かにする読書教育の充実

○ 本に親しむ習慣の定着と質・量の向上を図る。(指導課)

【主な取組, 成果等】

- ・「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」の推奨と表彰を行い, 児童生徒への読書活動の活性化を図った。

○ 市立図書館と学校図書館等との緊密な連携を図る。(図書館)

【主な取組, 成果等】

- ・学校図書館との連携としては, 巡回貸出による資料の提供のほか, 個別の要望に応え別途で貸出を行った。
- ・幼稚園, 保育所, 小学校に読み聞かせボランティアを派遣した(延べ179回派遣)。
- ・図書館見学(小学校8校)や職場体験(中学校3校, 高校1校)の受入を行った。また, 障害者総合支援法に基づく就労支援事業を行う施設の利用者1名の職場実習を行った。

○ 市民が知る喜びや学ぶ楽しさを実感できる図書館を目指し, 幅広い資料の収集と, レファレンスサービス等の充実に努め, 利用促進を図る。(図書館)

【主な取組, 成果等】

- ・図書4,233冊・CD334点を新たに収集, 雑誌127タイトルの収集を継続。
- ・相互貸借制度による他館からの借受は217件, 当館からの貸出は113件であった。
- ・国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用やレファレンス協同データベース事業への参加, 職員向け実務研修を行いレファレンスサービスの充実に努めている。

7 安心して子育てできる就学前教育の充実

○ 幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図る。(指導課)

【主な取組, 成果等】

- ・各公立幼稚園, 各小学校の計画訪問, 要請訪問, 授業研究発表会において, 相互授業参観を実施し, 幼児児童の育ちの姿の共有や接続を意識した指導を考える機会とした。
- ・「保幼小接続のための合同研修会」, 「保幼小連携協議会」を開催し, 市内の幼児教育施設及び小学校の代表者が今後の接続のための連携について意見交流等を行う場を設けた。

○ 親子の絆づくりを考えた就学前家庭教育の充実を図る。(生涯学習課)

【主な取組, 成果等】

- ・公立幼稚園5施設および私立保育園1施設において家庭学級を開催し, 子どもとのかかわりや家庭生活のあり方を学習し, 家庭教育力の向上を図った。
- ・「親子の絆プロジェクト」の一環として地域交流センター5階フリースペースを利用し「読み聞かせ活動」や「親子でシャボン玉づくり」, 「3歳からの楽しい親子ヨガ講座」等を開催し, 保護者がともに学ぶことを通じて教育力の向上とコミュニケーションの円滑化を図った。

○ 公立幼稚園の統合を推進する。(学校教育課)

【主な取組, 成果等】

- ・現在, 園舎の耐震性の問題から, 石下東部地区3園は石下総合福祉センターで, 石下西部地区2園は岡田幼稚園において合同保育を実施しており, 園児たちの交流が図られ, 統合の機運が醸成されつつある。
- ・石下西部統合幼稚園建築工事の実施設計を行った。

総合評価

「未来に夢をもち 「生きる力」を育む 学校教育の充実」について

- 計画訪問等の機会を通して、学習指導要領の方向性（主体的・対話的な深い学びを進める、道徳の教科化、外国語教育の充実）を徹底させると同時に教員が学習指導要領の趣旨に沿った適切な指導ができるように個々人の指導力の向上を図ってほしい。
- 「特別の教科 道徳」については、児童生徒が自らの問題として考え、議論を通して自らの考えを深めていけるよう指導法について具体的な指導・助言を行っていただきたい。
- 外国語教育については、担任と ALT との役割を明確にしながら ALT の有効活用ができるよう助言・指導をしていただきたい。
- 学習につまずきが見られる児童に対してきめ細かい指導をする「土曜日補修教室」は、つまずきがある児童にとって絶好の場所である。開室校以外の通室者が少ない現状を踏まえ、機会均等の観点から全校開室が望まれる。

「安全でいきいき学べる教育環境の創造」について

- 子どもを預かる学校は、安全、安心な教育環境を提供する責務がある。定期的、計画的、継続的に安全点検、補修を行い、安心して学べる環境づくりを願う。
- 水害の経験を教訓とし、防災意識が風化しないように継続的、定期的な防災教育の位置づけが必要である。
- 学校施設については、老朽化対策を進めるとともに学校間格差が大きいトイレの改修については、早急な取り組みが望まれる。

「市民の豊かなくらしを支える生涯学習の推進」について

- 市民のそれぞれのライフスタイルに合わせて学習の機会を提供することは生涯教育を推進するうえで大切なことである。さらに魅力ある講座の開設に努め、参加者の拡充を図っていただきたい。そして、講座終了後受講生による自主運営による学習の場が生まれれば生涯にわたる学習の継続につながっていくと考える。
- 地域交流センターの存在感を高めるためのライトアップの企画は斬新であると思う。ランドマークとしてのシンボル性を示すために改良をしながらの継続を希望する。また、地域交流センターの展示物のわかりやすい解説シートの作成や企画展の開催など歴史資料等の有効活用を図られたい。
- 「長塚節文学賞」「篠山木挽唄全国大会」などを通して地域の文化・伝統に目を向けるとともに、更に効果的な全国発信を検討されたい。

- 「常総市少年の主張大会」は、少年の柔軟な表現力、発想力、創造力等を知るための絶好の機会である。保護者や一般市民等にも広く参観を呼びかけられたい。

「市民の健康を増進する生涯スポーツの振興」について

- 市民の誰もがスポーツを愉しみ、健康づくりの実現のために公の専門スポーツ施設の整備、学校体育施設の開放等は積極的に行うことが望ましい。また、それぞれの年齢に応じてスポーツに親しめるような様々な場の提供を工夫されたい。
- 指定管理者への業務委託によって事務の効率化や専門的な指導者の確保がもたらされ、スポーツへの関心が高まったことは素晴らしいことである。
- 「いきいき茨城ゆめ国体」が成功裏に閉幕し、ハンドボールの町～茨城県常総市～の名を高め、競技の普及と向上に貢献したことに敬意を表する。

「健康を増進する食育の充実」について

- 学校給食への最大の願いは、安全・安心な給食の提供である。「学校給食衛生管理基準」及び「学校給食衛生管理マニュアル」に基づいた適切な取り組みが要求される。「みんなでスマイル給食の日」については、更なる拡充を期待したい。
- 様々な機会を通して、保護者への食育の推進にあたられたい。

「心豊かにする読書教育の充実」について

- 学校図書館には予算をはじめ多くの制約がある。子どもたちの読書活動支援のため、文部科学省の学校図書館図書標準100%を目指し、蔵書の充実を図られたい。また、市立図書館とは、巡回貸し出し等で積極的、緊密な連携を期待する。
- 図書館のデジタル化の一つとして普及しつつある電子図書の導入を望む。
- 市立図書館の定期的な利用者数が非常に少ないことから、市民が親しみやすく利用しやすい新たな図書館の設置を検討されたい。

「安心して子育てできる就学前教育の充実」について

- 保幼小の円滑な接続は親にとって最大の関心事である。「保幼小合同研修会」、「保幼小連絡協議会」等を積極的、効果的に活用し、親の不安の軽減に努めて欲しい。
- 公立幼稚園の統合は、地域住民との相互理解への根気強い努力が必要であり、石下東部地区についても合同保育が実施されていることを踏まえ早急に取り組まれたい。

個別事業に対する主な取組, 成果等及び教育審査委員の評価

達成度	計画又は目標を	有効性
○	達成又は概ね達成	◎ 成果がある
△	及ばず	○ 一定の成果がある
×	実施できず	×

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見

1 未来に夢をもち 「生きる力」を育む 学校教育の充実						
①学校教育内容の充実						
	新たな教育課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に対応する市独自の学校活性化加配講師, 教育補助員や外国人児童生徒支援員の配置と効果的な活用 ・適応指導教室と学校との連携 ・オリエンテーションキャンプの実施 	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・計画訪問や要請訪問を定期的実施し, 学習指導要領の方向性を浸透させ, 教員の指導力向上に努めてほしい。 ・外国語教育の導入, 外国人生徒の増加によってALT, 外国人児童生徒支援員の需要がますます増えてきた。市独自対応の学校活性化加配講師の制度は継承してほしい。教員の適正な配置を望む。 ・情報化社会に遅れをとらないように, ICT活用リテラシーを充分身につけるため計画的, 継続的な研修機会を撮供することが必要である。
	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日補習教室(常総ほっとサタデー教室)の開室 	○	継続	◎	
	体験的地域学習の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生議会の開催 ・地域の環境や資源を教材に, 地域の人材を活用する体験学習の充実 	○	継続	◎	
	情報化社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した指導の充実 	○	継続	◎	
	交流教育・国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手や外国人児童生徒支援員の活用 	○	継続	◎	
	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的支援を必要とする幼児, 児童及び生徒への人的支援 	○	継続	◎	
	教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・要請訪問等での授業公開 ・JOSO若手教員アカデミー(研修会)の実施 	○	継続	◎	
②健康な児童生徒の育成						
	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや教育相談員と関係者の連携を密にした児童生徒のカウンセリング対応の充実(適応指導教室体制の整備, 充実) ・保護者等の教育相談活動の充実(適応指導教室における電話相談など) ・各中学校への心の教室相談員の配置 	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー, 教育相談員と児童生徒, 保護者, 教員との連携を密にするとともに, 学校現場で全ての問題を抱え込み解決をするのではなく専門機関との連携をとるような体制の確立が必要である。

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
	体力向上及び健康管理の強化	・ 体育的行事の奨励による体力の向上と運動部活動の充実と効果的な指導の推進 ・ 保健事業と健康管理，体育・保健体育科教育，健康教育及び学校と家庭の連携による心身ともに健康な児童生徒の育成 ・ インフルエンザ対策の徹底や適度な運動習慣による健康管理	○	継続	◎	
	基本的な生活習慣の確立と豊かな心の育成	・ 「常総市子どもフォーラム」の実施 ・ あいさつ運動や読書活動等による基本的な生活習慣の定着	○	継続	◎	
③ 高校・高等教育との連携						
	地域活動との連携	・ 学びの広場，市内一斉防災学習での連携 ・ 高校生ボランティアの協力による「放課後子供教室」を開催 協力校：石下紫峰高校 実施校：飯沼，玉小学校	○	継続	◎	・ 「読み聞かせ」などを行った放課後子供教室や部活指導等を有効活用し地元の高中生と交流することはお互いが地域を理解する上で大切なことである。
	高等教育機関等との連携	・ 大学等の高等教育機関や試験研究機関，企業などと連携した教育への支援	○	継続	◎	
	協力して進める取組	・ 学びの広場における高校生ボランティアの活用	○	継続	◎	
2 安全でいきいき学べる教育環境の創造						
① 学校教育環境の整備						
	いきいき学べる教育環境づくり	・ 夜間中学設置の環境整備 水海道中学校に「夜間学級」を設置するため，説明会，先進地視察，生徒募集等を行い，準備を進めた。	○	今後も学校の適正配置，老朽化対策等，いきいき学べる環境づくりを進めていく。	◎	・ 夜間中学の開設については，短期間で様々な課題を乗り越え準備されたことに敬意を表する。 ・ 学校の情報化については，教職員の業務の効率化のため今後もサポート体制の充実も含めて推進していく必要がある。
	学校の安全対策の強化	・ 危険箇所及び老朽化した施設の修繕及び工事を実施した。 修繕工事件数：幼稚園 12件 小学校 137件 中学校 63件 修繕工事費：幼稚園 20,520千円 小学校 14,718千円 中学校 9,975千円	○	予算の確保に努めるとともに，長寿命化計画に準じた校舎等の改修を進めていく。	○	・ 通学路の安全対策については，危険箇所52箇所のうち安全対策を実施した箇所が半数以下であることから，引き続き積極的に安全対策に取り組んでほしい。

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
	学校情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報通信センターシステム、校務支援システムの運用により、学校情報化及び教職員の業務の軽量化を図った。 学校情報システム保守経費：12,405千円 校務支援システム運用経費：2,455千円 情報機器、ソフト借上：85,541千円 (教育用パソコン890台(内タブレット652台)、校務用パソコン495台、サーバ、ネットワーク機器等) 	○	教育の情報化を計画的に推進する。	◎	
	備品等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・一般備品購入 8,353千円 ・教材備品購入 15,463千円 ・図書購入 5,551千円 	○	継続	◎	
	通学環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「常総市通学路交通安全プログラム」に基づき、通学路安全推進会議を開催し、通学路の安全確保等について協議するとともに、8月に通学路の合同安全点検を実施した。危険箇所のうち24箇所について安全対策を実施。 	△	関係機関や関係課と連絡を密にし、通学路の安全確保に努める。	○	
	就学支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由による就学困難な児童及び生徒の保護者に対する就学援助を行った。 ・昨年度に引き続き、新入学児童生徒学用品費の入学前支給を行った。 	○	継続	◎	
	学校事務の共同実施の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・共同実施も7年目になり、それぞれが自分の立場や役割を理解・自覚し、積極的に活動できるようになった。 ・今年度も市内2つの共同実施グループに分かれ、事務所類の相互検閲、当市書赴任者や経験の浅い事務職員への支援、市会計や年末調整・学校長集金についての研修を行い、スキルアップに繋がった。 ・年度当初のテーマ「学校事務の効率化と事務職員の資質向上」のとおり、効率化及び正確性を追求した活動ができた。 	○	継続	◎	
	②防災・安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・危機意識を育てる防災教育の推進 	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育については、今後も計画的に実施し、防災意識を高めていくことが大切である。
	③地域と連携する学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ゲストティーチャーの活用等 	○	継続	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材リストの作成により各校に情報を提供することでさらなる活用を図ってほしい。

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
3 市民の豊かな暮らしを支える生涯学習の推進						
①生涯学習の充実						
	推進組織づくり	・地域女性団体連絡会をはじめ社会教育諸団体への活動支援 ・地域連携事業における地域で活躍する人材の確保および指導者としての活用	○	継続	◎	<p>・多様な学習の機会、講座や施設を提供するのは生涯学習の時代に入り歓迎すべき取り組みである。継続を望む。これらの講座の受講後に自主的運営の学習の場につながり、歓迎すべき状況である。</p> <p>・公民館まつりは講座受講修了後に設立された自主的なサークル等の参加が目立ち、アマチュアで家庭的な雰囲気のものも多く感じられ、市民の和やかさ、地区の特色を感じる。好感が持て継続を望む。</p> <p>・多くの市民が活用している公民館（特に水海道公民館）の早急な点検、改修を希望する。</p>
	学習情報の提供	・広報紙やホームページ、全戸配布チラシを活用し、講座の受講生募集やイベントの案内情報を提供 ・各施設の利用団体（サークル）をリスト化し、各施設へ掲示したほかホームページや講座募集チラシに掲載して紹介 団体数118団体（H31.4.1時点）	○	継続	◎	
	学習施設の機能充実	・交流拠点としての整備や老朽化等による不良個所の修繕を実施 ＜地域交流センター＞ 音響設備改修工事 ＜生涯学習センター＞ 空調設備改修工事 ＜公民館・集会所・文化センター＞ 菅原公民館法面舗装工事 三妻公民館ホール床改修工事	○	計画的に修繕を実施していく。	◎	
	施設の有効利用	・各種講座、イベント、団体の研修等による利用のほか、講演会や音楽会、学習成果の発表・展示の場として施設を活用。 公民館：77,851人（12館） 集会所：2,993人（3館） 生涯学習センター：55,989人 地域交流センター：56,828人 文化センター：17,544人（4館）	○	引き続き施設の有効利用を図る。	◎	
	学習プログラムの提供	・前年度から継続した各種講座の実施のほか、子育て、自然派化粧品、ギター、簡単薬膳料理など4講座を新規に開講 受講者計：391人	○	受講者の意見やアンケート結果を反映した講座の開催。	◎	
	自主企画の推進	・地域交流センターホールを会場に、自主事業を実施 宝くじまちの音楽会 南こうせつコンサート	○	継続	◎	
	地域課題対応の活動推進	・市内小中学校(19校)のほか公立幼稚園(3施設)、私立保育園(1施設)において家庭教育学級を実施	○		◎	

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
	公民館活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつりの開催及び各公民館バスハイク等の自主事業を実施 ＜地区公民館まつり＞ 石下地区（石下中央公民館） 水海道地区（水海道公民館） 大花羽・菅原地区（大花羽公民館） 豊岡地区（豊岡公民館） 五箇・三妻地区（五箇公民館） 絹西地区（内守谷公民館） 大生地区（大生公民館） 	○		◎	
②	地域文化の醸成					
	文化芸術振興計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の継続と情報発信を実施 	△	継続	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化芸術振興計画」の内容が市民にあまり浸透していないので更なるPRの必要性を感じる。 ・文化祭、芸術文化のつどい等は市の文化レベルの向上の原点である。市民が身近に文化・芸術に接することにより文化への理解、関心が深まると同時に各文化団体の育成にも繋がるので広報を充実させての継続を望む。 ・「長塚節文学賞」は歴史を重ね全国的に関心が高まっている。長塚節を通してハンドボールの町と並行して常総市の名を全国に高めてほしい。
	文化事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化団体の活動発表の機会を提供 ＜市民文化祭＞ 23事業（生涯学習センターほか） 期間：10/17～11/15 ＜芸術文化のつどい＞文化協会主催 参加11団体、作品展示5団体 	○	継続	◎	
	地域文化情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・第22回長塚節文学賞（応募作品数） 短編小説部門 132点 短歌部門 4,243点 俳句部門 6,026点 ・第23回篠山木挽き唄全国大会 参加者：213人 	○	継続	◎	
	郷土遺産の調査・保護の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定重要文化財「坂野家住宅」の主屋や表門の屋根の修繕について文化財関係補助金にかかる事業計画を県に対して要望したほか、埋蔵文化財関連では民間事業者による開発事業が埋蔵文化財包蔵地内（古間木）であったため発掘調査を実施した。 ・市内指定文化財等件数（令和2年3月31日現在） 国指定：1 県指定：9 市指定：53 国登録：3 	○	継続	◎	
	歴史文化等資料の整備と情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化した資料を「常総市デジタルミュージアム」としてネット公開した。 	○	継続	◎	

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
③青少年の育成						
	関係機関・関係団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年相談員会や青少年育成市民会議、子ども会育成連合会との連携による子どもたちの見守りをはじめ、茨城県や公益社団法人茨城県青少年育成協会等とも連携し、先進地視察研修や指導者研修等を通じて青少年の健全育成を推進した。 青少年相談員会（相談員58名） 街頭指導活動：11回、延68人 指導者研修：5回、延19人 	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・重点事項の中に「青少年関係組織の全市的な連携」を謳っているのだから、青少年育成常総市民会議の石下支部設立については、現在取組中と思うが早急な取り組みが必要である。 ・「少年の主張大会」は少年（中学生）の夢、理想、希望等を直接聴くことにより現代の少年を再認識できる絶好の機会である。同時に少年の柔軟な思考力、創造力を向上させる機会でもあり継続を望む。
	育成組織の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成のための活動を支援 <常総市子ども会育成連合会> 「子どもまつり」や「サマキャンプ」、 「指導者研修会」等を実施 <青少年育成常総市民会議> 「あいさつ声かけ運動」や「キャンプ」各種イベントなど支部ごとに事業を実施 <常総市少年の主張大会実行委員会> 市内各中学校ごと2名の発表者による主張大会を実施（見学者は各中学1年生） 	○	継続	○	
	学校・家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子供教室を開催 市内14小学校のうち13校で開催 指導者登録：183人 登録児童数：863人 	○	継続	◎	
	活動企画の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーズ高校生会とも連携して「ふれあいサマキャンプ」を実施し、体験活動を通して参加者の健全育成を図った。 参加者：60人 会場：国立中央青少年交流の家（静岡県） 	○	継続	◎	
	地域環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもを守る110番の家」の登録拡充を図り、安全な地域づくりを推進 登録状況：934件 	○	継続	◎	

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
4 市民の健康を増進する生涯スポーツの振興						
①スポーツ施設の有効利用						
	スポーツ施設の整備	<p><指定管理施設整備事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○水海道総合体育館 5件 1,571,835円 ○水海道球場 1件 248,464円 ○きぬ温水プール 3件 5,062,600円 ○石下総合体育館 4件 67,252,080円 ○吉野サン・ビレッジ 2件 352,000円 <p style="text-align: right;">総合計 74,486,979円</p> <p><指定管理外施設整備事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○天満運動場 1件 4,147,000円 	○	指定管理者との連携を密にし、利用者への安全、安心なスポーツ環境の提供と満足度の向上を目指し、計画的に整備事業を継続していく。	◎	・今後も利用者が安心してスポーツに取り組めるよう整備事業を進めていく必要がある。
	学校体育施設の開放	<ul style="list-style-type: none"> ○開放対象施設 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校14校，中学校5校 ○開放時間 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校体育館 <ul style="list-style-type: none"> 平日 18時～22時 土日祝 8時～22時 ・小学校校庭 <ul style="list-style-type: none"> 平日 18時～22時 (大生小・飯沼小のみ) 土日祝 8時～17時 ・中学校体育館・武道館 <ul style="list-style-type: none"> 平日 18時～22時 土日祝 8時～22時 ・中学校校庭 8時～17時 ○利用団体数 81団体 ○利用者 <ul style="list-style-type: none"> ・体育館 64,047人 ・校庭 8,908人 ・武道館 13,229人 	○	市民の身近なスポーツ施設として、今後も利用者は増加していくものと思われるため、円滑な開放事業の運営を継続していく。	◎	
	施設管理・運営体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○指定管理者による施設の運営管理 <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理施設の利用者数 259,233人 ※対前年度 90% ・自主事業（スポーツ教室及びスポーツイベント）開催実績 <ul style="list-style-type: none"> 年間59教室開催 参加者数 17,541人 ○指定管理者による施設整備実績 <ul style="list-style-type: none"> ・整備件数 54件 ・整備経費 2,089,299円 ○指定管理料 95,000,000円 	○	民間の質の高い、サービスの提供を促し、より多くの市民がスポーツを身近に感じられるよう協力し、継続していく。	◎	

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
②指導者・活動団体への支援	指導者への支援と確保	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ推進委員活動 <ul style="list-style-type: none"> ・報酬 @30,000円×18人=540,000円 ・活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ①いきいき茨城ゆめ国体2019 ②全国スポーツ推進委員研究協議会 ③その他 各種研修会への参加 ○スポーツ少年団指導者育成及び確保 <ul style="list-style-type: none"> ・県スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成講習会への参加促進(3会場開催 8人参加) ○スポーツ教室における指導者活用 <ul style="list-style-type: none"> ①柔剣道教室(体育協会石下柔道部, 石下剣友会指導者) ②レディースゴルフ教室(体育協会ゴルフ部) ③健康水泳教室(スポーツ推進委員) ④ジュニアハンドボール教室(スポーツ少年団ハンドボール指導者) ⑤太極拳教室(体育協会太極拳部) ⑥卓球教室(体育協会卓球部) 	○	オリンピック開催を控え、スポーツに対する関心の深まる中、市内各種スポーツ団体に対し、スポーツに係る情報を積極的に提供し、指導者の養成と資質の向上に努める。更に主催するスポーツにおいて、市内スポーツ団体の指導者を積極的に活用することで、地域の人材育成と指導者の確保を図っていく。	◎	・今後も地域の指導者を活用したスポーツ教室の開催を積極的に進めていってほしい。
	活動団体への支援	<p>常総市体育協会及び常総市スポーツ少年団の事務局として、加盟するスポーツ団体や会員の交流並びに自主事業の運営を実施 また、団体運営のための補助金申請事務を実施</p> <p>【補助金交付額】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体育協会 2,000,000円 ②スポーツ少年団 1,000,000円 <p>【加盟団体数及び会員数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体育協会 36団体 2,015人 ②スポーツ少年団 35団体 816人 	○	少子高齢化の進む中、自主的な組織運営が図られ、会員の増加に向け継続的に支援を実施していく。	◎	
	総合型地域スポーツクラブへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ○活動施設の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・学校体育施設の利用許可 ・社会体育施設の優先予約 ○経済的支援 <ul style="list-style-type: none"> ・社会体育施設の使用料免除 ○活動事業への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツクラブ主催事業のお知らせ版への掲載 	○	今後も活動場所の確保や活動のPR等による支援を継続していく。	◎	

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
③スポーツ活動の促進						
	生涯スポーツの普及	<p>○スポーツ教室の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催教室募集定員 1,525人 ・参加者数 1,092人 ・参加率 71.6% ・事業費 1,100,000円 <p><スポーツ普及分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ①柔剣道教室(柔道 27人, 剣道 7人) ②ジュニアハンドボール教室 (前期 55人, 後期 80人) ③レディースゴルフ教室 (前期 29人, 後期 12人, コース 12人) ④ジュニアバドミントン教室(5人) ⑤卓球教室(41人) <p><健康推進分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ①健康水泳教室(年間29日間 680人) ②アクアビクス教室(40人) ③立腰体操教室(37人) ④太極拳教室(19人) ⑤シェイプアップ教室(38人) ⑥ノルディックウォーキング教室(10人) 	○	開催する各種スポーツ教室の種目が定着し、応募者の低下傾向にあるため、今後は市民のニーズに合った新たな種目を検討しながら実施していく。	◎	・市民のニーズをとらえた魅力あるスポーツ教室の開催に努め、参加者を増加させてほしい。
	スポーツイベントの開催	<p>○親子deいきいきスポーツフェスタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、いきいき茨城ゆめ国体の開催があったため、準備等が間に合わない事から開催をしなかった。 	×	参加者の減少が大きな課題となっているため、新たなプログラムを検討し、活気あふれるイベントとして実施する。	×	
	自主企画の推進	<p>○市内各種スポーツ団体への活動補助金交付 (8団体 373,000円)</p>	○	継続	◎	
	競技スポーツの振興	<p>国体記念 第46回常総市長杯争奪茨城県中学校ハンドボール大会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加校 男子17校 女子14校 合計31校 ・事業費 422,700円(市負担 290,800円) 	○	地域の特徴あるスポーツとして、大会運営の演出を工夫し、更なる充実と競技力向上に向け継続していく。また、国体のレガシーとして、合同開催した守谷市・坂東市と様々な面において連携を図り継続していく。	◎	

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
	国民体育大会成功に向けた市民協働の事業推進	<p>○いきいき茨城ゆめ国体守谷市，常総市，坂東市実行委員会への負担金交付 ※負担金額 52,000,000円</p> <p>①啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコットキャラクターによる守谷市，常総市，坂東市内でのイベントへの活動に参加。 ・印刷物による広報活動 ・メディア活用による広報活動 ・工作物による広報活動 ・啓発物品の作成及び販売 <p>②競技大会内活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校による応援観戦 (市内小学校6年生，市内中学校1，2年生) ・おもてなし料理（ふるまい料理） (市内6団体，2販売業者によるふるまい) ・花いっぱい運動 (市内幼稚園，保育所，小学校・中学校，高校，個人，その他) 	○	終了	◎	

5	健康を増進する食育の充実					
	①学校給食の充実	<p>・児童生徒一人一人が健康な生活を送るために必要な栄養バランスのとれた給食を提供するとともに，郷土への関心を深め，自然の恵みや働く人々への感謝の心を養うために地産地消の推進を実施した。</p> <p><給食提供数></p> <p>豊岡12校 1日3,206食:年176回 玉 10校 1日3,003食:年176回 (下妻市3校 1日793食)</p> <p><献立内容の充実></p> <p>給食主任献立会議を行い，児童生徒や学校の要望を取り入れ献立の充実や給食業務の改善を行った。</p> <p><地場産物会議> 各センター一年11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常総市産 米 100% 野菜・穀物・肉等含む食材全体 豊岡 41% 玉 45% <p>・野菜や生産者を学校掲示物や校内放送で紹介した。</p>	○	継続	◎	・地産地消のための家庭のアイディアメニューの募集など家庭への啓発の方法を工夫していく必要がある。

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
		<p><郷土料理の提供></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の郷土料理などを献立に取り入れ内容を充実させるとともに、郷土や日本の優れた伝統的な食文化についても理解するよう啓発した。 <p><調理等業務の民間委託></p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊岡センター調理等業務委託 委託期間 5年 (H29.1.1~R4.12.31) 委託料 年間 76,739千円 (税込) (車両代, 3台分含む) 委託業者 イートランド (株) ○玉センター調理等業務委託 契約期間 3年 (H30.4.1~R3.3.31) 委託料 年間 68,280千円 (税込) 委託業者 葉隠勇進 (株) <p>※週, 月ミーティングの実施 ※委託業者による調理, 配送員の衛生講習や技術研修の実施及び報告 ※委託業者による巡回指導の実施</p>				
②安全・安心な学校給食の提供		<p>「学校給食衛生管理基準」等に基づいた衛生管理や保菌検査を実施し, 食中毒発生を防止した。給食食材においても安全・安心な食材の購入や放射能測定検査を実施し, 市ホームページに公表した。</p> <p><衛生管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ○衛生検査 (食材, ドア, 手指, 落下菌等) ・県薬剤師会検査センター 各センター一年3回実施 検査手数料 各センター214千円 ○害虫等駆除 各センター一年12回実施 委託料 各センター339千円 	○	継続	◎	・今後も学校給食衛生管理基準に基づいた安全安心な学校給食の提供に努めてほしい。

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
		<p><保菌検査> 対象者：センター職員，給食業務従事者（学校を含む） ○保菌検査（5項目） 毎月2回 （赤痢・腸チフス・パラチフス・O157・サルモネラ） ○ノロウィルス（10～3月） 毎月1回 ・豊岡センター 32人，1,230千円 ・玉センター 26人，1,029千円 （下妻市 6人分含む）</p> <p><安全・安心な食材の使用> ○食材の成分表や原産国，生産国を確認し，安全・安心な食材を購入した。 ・入札 各センター 年間22回 統一 年間 3回 ○放射能検査（市ホームページで公表） ・野菜 月10回程度 ・全品検査 月 4回</p> <p><施設・調理器機の更新，修繕> 施設や調理器機について適宜修繕・更新を行い，継続して安全に給食を提供した。 ○豊岡センター 更新 食缶類洗浄システム 16,718千円 修繕 44件 5,097千円 ○玉センター 更新 マイコンスライサー 1,793千円 配送用コンテナ 538千円 冷蔵庫・消毒保管庫 486千円 修繕 58件 7,954千円</p>				

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
③学校・家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による家庭教育学級や親子給食での講話，栄養士による給食時間の訪問指導など，学校・家庭・地域社会を含めた連携により，食生活に対する正しい知識を持った児童生徒の育成や，保護者に食習慣の形成と健康づくりについて啓発・推進を行った。 <p><給食時間の訪問指導> 豊岡センター35回，玉センター34回 ※各センター栄養士による</p> <p><情報の提供> 地場産物や季節に合った食の最新情報，全国の郷土料理などを献立表に掲載し，給食時間の校内放送用の資料を提供した。</p>	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導を充実させるために，学級担任による給食指導のための資料の提供等を進めていただきたい。 	
④食物アレルギーへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・献立表へ使用食材を記載し，希望者に「アレルギー配合表」を配付し情報を提供した。 ・就学前児童に食物アレルギー調査を行い「食物アレルギー対応マニュアル」を活用し対応した。 ・学校・保護者・給食センターによる三者面談を実施した。 <p><食物アレルギー該当者> 豊岡センター 30人 ※三者面談 10人 玉センター 10人（下妻市2名） ※三者面談 2人</p> <p><みんなでスマイル給食の日> 食物アレルギーや宗教上の理由などで同じ給食を食べられない子供たちにも，みんなで一緒に食べる給食の楽しさの共有と多文化への相互理解のため，食材に配慮した給食を提供した。</p> <p>実施日 令和元年11月28日，29日 給食内容 アレルゲン27品目を除き，動物性食品を含まない献立</p>	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーへの対応については，「対応マニュアル」に沿った適切な対応を継続していただきたい。 	

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
6	心豊かにする読書教育の充実					
	①読書教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」の推奨と表彰 ・市立図書館との連携による子どもの読書活動の推進 (市立図書館から学校図書館への図書の配本・団体貸出) 	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館との連携を更に進め、図書や映像資料等の有効活用を図ってほしい。
	②図書館活動の推進					
	市民ニーズに応えた資料の充実やサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・購入・寄贈により図書4,233冊・CD334点・雑誌127種・新聞17紙を収集。 ・茨城県自然博物館の事業による「移動博物館」を実施 ・あすなろの里で日販の事業提案によるイベント「森の百冊絵本」を開催 	○	【継続】 資料の収集・整理・保存は、図書館の基本的な業務である。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も市民のニーズに沿った資料の収集を進めてほしい。また、関係機関と連携したイベントなどに積極的に取り組んでいただきたい。
	ホームページ・インターネット等を活用したサービス提供やレファレンスサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館で使用しているCMSに加えて市のホームページでも情報を発信、両者をリンクで結ぶことで、より多くの市民に情報が届くよう留意した。 ・職場内でレファレンスの実務研修を行い、国立国会図書館が運営するレファレンス協同データベースの使用方法について奉仕係全員が習得した。 	○	【継続】 レファレンス業務については、職員個々の能力向上と後進の育成が急務。	◎	
	子どもの読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年11回ブックスタート事業を実施し、290組の参加者に絵本を配布。 ・市内の各小学校・幼稚園・保育所に読み聞かせボランティアを派遣 ・公立児童クラブへの団体貸出 	○	【継続】 ボランティアの高齢化と新規ボランティア獲得が喫緊の課題。	◎	
	図書館サービス網の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・相互貸借制度により、他館から217冊を借受、当館から113冊を貸出 	○	【継続】 県外図書館との相互貸借についても、一定の実績がある。	◎	

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
	施設の維持管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・二水会館でレレコスモス・コンサートを開催。同会館で特別企画展として草間徹雄「写真展」を開催 ・視聴覚室，集会室を文化団体の活動の場として提供。また，学習室としても開放 	○	【拡充】 二水会館の有効利用について検討する。	◎	
7 安心して子育てできる就学前教育の充実						
①子どもの自主性・自立性の芽生えを支援する幼児教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた「遊び」を通じた学びの充実に向けた助言・指導 	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの仕事は遊ぶことである」と言われる。遊ぶことによって運動能力や知的能力が発達し，社会性も身につく。専門機関とも連携をとり，助言，指導を望む。 	
②保幼小中の積極的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・発達や学びの連続性を踏まえた円滑な接続のための合同研修の実施 ・保幼小連携協議会の開催 	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「保幼小合同研修会」や「保幼小連絡協議会」は保幼小への円滑な連絡をとるため，また親，教師の持っている問題を解決する上でも大切なことである。継続を望む。 	
③就学前家庭教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園 5 施設のほか私立保育園 1 施設を拡充し家庭教育学級を実施 	○	未実施のこども園や保育所，さらには希望する企業での実施も検討する。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級は，核家族化の進展や地域の人間関係の希薄化等により，その果たす役割はますます重要なものとなっている。市内で幅広い実施が望まれる。 	
④多様な保育ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の実施 東部地区は石下総合福祉センター，西部地区は岡田幼稚園で実施。 実施時間 平日＝教育終了後から午後 6 時 休業日＝午前 8 時 30 分から午後 6 時 〈石下総合福祉センター〉 実施日数 221 日，利用者数 54 人 〈岡田幼稚園〉 実施日数 221 日，利用者数 66 人 	○	継続	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・親の子育ての基本は「子供と一緒に居ることである」が，経済的等多様な条件で子と居る時間が短い親に対し場を提供することは行政の仕事である。継続を望む。 	

区分	事務の内容	管理及び執行の状況	点検		評価	
			達成度	方向性	有効性	意見
⑤教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・石下西部統合幼稚園園舎改築工事基本・実施設計業務委託 石下西部地区に統合幼稚園を建築するため、工事設計業務を行った。 R1. 10. 25～R2. 5. 29 19,800千円 ・キュービクル新設及び空調設備移設工事 合同保育開始に伴い、4休園舎から岡田幼稚園のすべての保育室にエアコンを移設した。 R1. 5. 24～R2. 9. 30 19,440千円 ・一般備品購入 246千円 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、東部地区1園、西部地区1園に向けて統合を進める。 ・備品整備は継続 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の統廃合は地域住民との真摯な協議が必要になる。根気強い誠意ある態度で臨み共通理解を得る姿勢が要求される。少子化の現状と予算上だけの説明では禍根を残してしまう。 	